特　　殊　　報

岡 病 防 第 5 号
令和７年５月 30 日

各関係機関長　殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察特殊報第１号を下記のとおり発表したので送付します。

令和７年度病害虫発生予察特殊報第１号

令和７年５月 30 日
岡　　山　　県

１　対象名　　ナガエツルノゲイトウ　*Alternanthera philoxeroides*
２　発生作物名　　水稲
３　特殊報の内容　　県内の農地で発生を確認
４　初発生確認月日　　令和７年５月 28 日
５　発生確認場所　　岡山県小田郡矢掛町
６　発 生 面 積　　30a
７　発生確認の経過

令和７年５月 27 日、県内の水田において、本種と疑われる多年草が確認されたという連絡があった。防除所職員が現地の確認に向かい、本種と疑われる多年草の写真を撮影し、同日、環境省に同定を依頼した。

令和７年５月 28 日に、ナガエツルノゲイトウであることが判明した（写真１、写真２）。

８　国内での発生状況

日本では 1989 年に兵庫県で初めて見つかり、2025 年２月現在で東北以南の 30 都府県で分布が確認されている。ナガエツルノゲイトウは河川等に侵入・定着してから水田に侵入すると考えられており、これまで本種が確認されている都府県のうち 14 府県では水田への侵入も確認されている（農研機構「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」より抜粋）。

９　生態

（１）本種は特定外来生物（※）に指定されている南米原産の多年草である。
（２）開花期は４～10 月であるが、国内の系統は種子を付けず、茎や根で増殖する。
（３）茎の再生力が強く、数センチの断片から容易に発根して増殖する。
（４）茎はちぎれやすく水に浮き、断片が用水・河川を介して運ばれるため拡散しやすい。
（５）直根は土中で50cm以上伸び、根断片からも再生する。
（６）水陸両生で、畦畔や畑地にも侵入する。

10　診断及び見分け方（別紙１）

（１）葉は節から一対の葉が付く。葉の長さは2.5～５cm、葉の幅は0.7～２cm で、葉の先端はややとがる。
（２）茎は空洞（ストロー状）で、節に短い毛が生える。茎の表面はなめらかである。
（３）葉の付け根から花柄を伸ばし、その先に白い小さな花を球状につける。花柄の長さ

は約１～４cm、球状花の直径は約１～1.5cm である。

11 被害

水田や畑で繁殖すると、作物との競合による収穫量の減少や農業機械の作業性の低下をもたらす。

12　防除対策

別紙２を参照する。

13　その他

農地や畦畔において本種と疑われる多年草を確認した場合は、岡山県病害虫防除所（086－955-0543）、県農業研究所　作物・経営研究室（086－955-0275）にご連絡ください。



写真１　水田に繁茂した様子



写真２　葉の着生状況（上）と茎を折った状況（下）

※特定外来生物とは、海外起源の外来種のうち生態系や農林水産業などへ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定された外来生物で、放出、栽培、保管、運搬、譲渡、輸入などが禁止されています。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/　です。

（別紙１）



図　ナガエツルノゲイトウの見分け方

※出典：ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル（農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構）

※写真提供：一般社団法人自然環境研究センター

（別紙２）

１ 水田における侵入、流出防止対策

・管理作業は、ナガエツルノゲイトウが発生していないほ場から行い、使用した機械は洗浄を徹底する。農機に付着した断片を拡散させない。

・水口に収穫ネット等の網を設置し、茎断片が水田に流入するのを防ぐ。

・田植前や中干し等の落水時に水尻にザル等をおいて茎断片の流出を防ぐ。

２ 水田及び畦畔における蔓延防止対策

・刈り払いによって茎断片が農地に侵入・拡散するおそれがあるので、畦畔で定着が見られる場合、除草剤を中心に管理を行う（表３）。薬液が水稲に飛散しないよう注意する。

・発生が確認された水田では生育に応じて、体系防除を実施する（表１、２）。

・除草剤はラベルの表示（適用場所、収穫前日数、散布回数等）を確認してから使用する。

３　水路等における蔓延防止対策

・本種の発生地域では、その水系に生息が拡大している可能性がある。地域の関係者と連携を取り合い、水系単位で対策を行う。

・駆除対象の生息規模や状況に応じて、人力または重機等での抜き取り・剥ぎ取りを検討する。抜き取った植物体は放置せず、断片等がこぼれ落ちないよう袋に入れて密閉し、茎や根茎を含む植物体すべてを完全に乾燥させるか、もしくは腐敗させる。わずかでも生存した茎や根の断片が残っていれば拡散の原因となるため注意する。

表１　ナガエツルノゲイトウの水田での防除体系で用いる薬剤の農薬使用基準（令和７年５月29日登録状況確認）

農薬の名称 （有効成分名）	農薬使用基準			
	作物名	使用時期	使用量 （10a当たり）	本剤の注) 使用回数
ピラクロン１キロ粒剤 （ピラクロニル）	移植水稲	移植時	1kg	１回
		植代後～移植7日前 又は移植直後～ﾉﾋﾞｴ1.5葉期 ただし移植後30日まで	1kg	１回
バッチリＬＸ１キロ粒剤 （ピラクロニル） （オキサジクロメホン） （イマゾスルフロン） （ブロモブチド）	移植水稲	移植時	1kg	１回
		移植直後～ﾉﾋﾞｴ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1kg	１回
ウィードコア１キロ粒剤 （フロルピラウキシフェンベンジル） （ペノキススラム） （ベンゾビシクロン）	移植水稲	移植後7日～ﾉﾋﾞｴ4葉期 ただし、収穫60日前まで	1kg	２回以内
ロイヤント乳剤 （フロルピラウキシフェンベンジル）	移植水稲	移植後20日～ﾉﾋﾞｴ5葉期 ただし、収穫45日前まで	200ml （希釈水量25～100L）	２回以内

注）他剤との体系処理を行う際には、有効成分の総使用回数を遵守する。

（農研機構「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」をもとに作成）

表２　ナガエツルノゲイトウの水田での防除体系

	体系1	体系２
初期剤/一発処理剤	ピラクロン１キロ粒剤 （初期剤）	バッチリLX１キロ粒剤 （一発処理剤）
中・後期剤	（たん水状態の田で） ウィードコア１キロ粒剤	（中干し中又は浅水の田で） ロイヤント乳剤

注）薬剤の散布可能時期や他の発生雑草に合わせて体系１もしくは２を選ぶ

（農研機構「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」をもとに作成）

表３　ナガエツルノゲイトウの畦畔で用いる除草剤（令和７年５月29日登録状況確認）

農薬の名称	使用時期	本剤の[注)] 使用回数
ラウンドアップマックスロード	収穫前日まで（雑草生育期）	３回以内
ザクサ液剤	収穫７日前まで（雑草生育期）	２回以内
タッチダウンiQ	収穫14日前まで（雑草生育期）	２回以内

注）他剤との体系処理を行う際には、有効成分の総使用回数を遵守する。